

第17回 本願寺史料研究所 公開講座

聴講無料
要予約
※先着順

第1部(約60分)

「監獄教誨と浄土真宗—その歴史と現在」

繁田真爾(東北大学大学院国際文化研究科・GSICSフェロー)

日時

2024(令和6)年

1月12日(金)

第1部 12時30分～13時35分

第2部 15時30分～16時30分

場所

西本願寺 聞法会館 多目的ホール
京都市下京区堀川通花屋町上ル(西本願寺北側)



囚徒動作之図



教誨セル圖



監房教誨ノ圖

網走監獄 教誨堂

第2部(約60分)

「覚信尼と大谷影堂の留守職」

岡村喜史(本願寺史料研究所・上級研究員)

定員

180名

申込方法

郵送、FAX、申込フォーム



御絵伝(八幅) 本願寺蔵

覚信尼公碑 大谷本願

問い合わせ

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
浄土真宗本願寺派宗務所内 所務部(文書担当)本願寺史料研究所公開講座係
TEL: 075-371-5181(代) FAX: 075-351-1372
E-mail: shiryoken17@hongwanji.or.jp

主催 本願寺史料研究所

要 旨

「監獄教誨と浄土真宗—その歴史と現在」

繁田真爾(東北大学大学院国際文化研究科・GSICSフェロー)

現在、刑務所をはじめとする矯正施設では、宗教者による教誨活動が行われています。明治初年に浄土真宗が創始したとされる監獄教誨は、2022年には150周年を迎えました。なぜ浄土真宗が監獄教誨の中心を担い続け、教誨師たちは人間の罪悪をどのように見つめたのでしょうか。そしてその活動には、一体どのような困難があったのでしょうか。その歴史と現在を通して、犯罪・更生・刑罰など、私たちの社会が直面しているさまざまな課題も考えてみたいと思います。

「覚信尼と大谷影堂の留守職」

岡村喜史(本願寺史料研究所上級研究員)

2024年は、本願寺の基礎を築いた覚信尼が誕生して800年になる年です。親鸞聖人の廟所から発展した大谷影堂をお守りするため覚信尼は影堂の留守職に就任しました。そしてこの留守職は覚信尼の子孫が継承することとされ、第3代留守職の覚如上人が大谷影堂を本願寺へと発展させることとなりました。この800年を機縁として、親鸞聖人の娘である覚信尼がどのように聖人の影堂をお守りされていたのかについて、その経緯をたどってみたいと思います。

申し込みFAX 075-351-1372

(浄土真宗本願寺派 所務部〈文書担当〉本願寺史料研究所公開講座係行)

お名前 (代表の方)	フリガナ
参加人数	名様
ご連絡先	電話番号もしくはメールアドレス ※定員超過の場合等のご連絡先
(郵送・FAXで お申込みの方) ご住所	※折り返し受講受付ハガキをご送付いたします